富山市総合計画審議会「第１回 調整部会」
議事録

日時：2016 年 1 月 29 日（金）10:00～11:30
場所：富山市役所　第 4 委員会室
出席者：（順不同）

髙木繁雄	富山商工会議所（部会長）
神川康子	富山大学理事・副学長
酒井富夫	富山大学極東地域研究センター教授（代理）
中村和之	富山大学経済学部学部長・教授
宮口侗廸	早稲田大学教育・総合科学学術院教授・文学博士
宮田伸朗	富山国際学園学事顧問

企画管理部　今本部長、上谷理事、西田次長、酒井参事、清水主幹

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 部会長職務代理者の指名について
4. 議事

（１）各部会での審議の概要について

〇資料　富山市総合計画審議会指摘事項と対応（第２回部会、第３回部会）

〇資料　各部会議事録

（２）第２次富山市総合計画基本構想（素案）について

〇資料　第２次富山市総合計画基本構想（素案）

＜各部会での審議の概要について＞

□人材・暮らし部会

委員

- 富山市を取り巻く状況については市民一人一人が富山市の施策に参画していくという意識を持ってもらう必要がある。
- コンパクトシティ、環境未来都市とうたっているが、まちなかだけに力が入っていて、中山間地域が取り残されるというイメージを与えてしまっているのではないか。それぞれの地域で、生きがいを持って暮らしていけるようにしていく計画なのだということを理解してもらう必要がある。
- 主要課題では能動的な教育の取組について強調すべき。

・　世界につながるリーダーシップを取れる人材（グローバル人材)、同時に地域を支える地域のリーダーとしての人材の両方が必要。起業家、実業家の育成において高等教育の場でも将来のビジョンを持った人材を育成する必要がある。富山大学では地（知）の拠点として地域の産業との連携を進めているが、そのような地域に根差し、世界も視野に入れた人材の育成が必要。また、生涯を通して人格形成、国家を支える人材という視点での人材育成も必要。
・　基本構想については子供たちの学び、育てていく環境の整備、子どもたちの生きる力をどう育てていくかについても触れる必要があるのではないか。
・　全体としては幅広い議論があり、なかなか取りまとめるのが困難であったが、部会長としては安心、安全の暮らしをベースにしつつ、子どもから高齢期まで生涯にかけてどう市民力を高めるのか、そのための環境づくりが重要。富山市の魅力、都市力をどうアップしていくかがポイントになるのではないか。

□都市・環境部会

委員

・　委員から富山市の強みを強調すべきという意見があがったので、基本構想素案 P8 のたとえば①では「教育に対する意識が高い」、②は「暮らしやすい」という強みを強調する文言を入れる等の対応いただいた。
・　P14 の主要課題においても、強みを強調すべきという意見があった。下から 6 行目の「全国的にトップクラスにあるにも関わらず・・」は各種の指標で全国的にトップクラスであるということを表すために対応いただいた。
・　P17（３）の中に「歴史・文化・芸術のまちづくり」とあるが、「歴史・芸術・文化」の順番を入れ替えたほうがよいという意見をもとに対応いただいた。
・　P21（２）は防災に偏っているのではないか、人為的災害も記載すべきという意見もあり、施策（４）に「防犯・交通安全対策」として、自然災害・防災だけではないというところを拾った表現にした。
・　安全・安心も「安心・安全」ではないかとの意見があった。例えば医療分野では「安心・安全」他の分野では「安全・安心」だが、ここでは「安心・安全」となった。
・　P21 の政策 3 では森林整備によって、自然災害防止、観光施設としても森林政策は機能すべきという意見があり、施策（４）暮らしの安全を守り安らぎを与える森づくりでは「安らぎ」という言葉が加わった。心理的にも影響を与える森づくりということを反映してもらった。
・　政策 4 はハードに偏っているのではないかということで、環境教育の推進についても記載すべきという意見をもとに、施策（３）市民・企業・行政の協働によるとし、教育的なニュアンスも含めて表現を拡大した。
・　P16 基本理念「安らぎ・誇り・希望・躍動」では、富山市の魅力をもっとアピールで

きるようなインパクトのあるキーワードがあったほうがいいという意見を反映し、「躍動」を追加していただいた。

- P16 に富山らしさを入れるべきという意見が度々出た。例えば環境や環境都市という言葉を強調したほうがよいという意見もあったが、これについては対応していない。この総合計画は環境だけに偏らず、福祉、教育の視点もあるので、特に環境都市というに環境を突出させないことにした。
- 今後の基本計画で具体的に盛り込むべきことではあるが、細かい意見はたくさんあり、例えばドクターカーの配置、地区センターの機能拡充、それぞれの分野をつなぐ横断的な取組の検討等あった。

□活力・交流部会

委員

- 話題にあがったのは、「レジリエンス（強靭化）」とは何かということ。どういう意味かということを確認しながら議論した。強い風が吹いても折れない柳のような性格のことであり、柳のようなコンパクトシティであってもらいたい。レジリエンスとは富山市としていい表現になるのではないか。宮田委員からも話があったが、まちなかだけではなく、安全、安心をベースに、コストダウンばかり追求することのないコンパクトシティであるべき。
- レジリエンスを持つ産業構造とはどういう構造かという話にもなった。企業城下町のような、ある産業に特化した強靭なイメージというよりは、地方都市としての幅広い産業、農業分野、中山間地域の問題、中小零細企業の振興というものを前面に出したらどうか。あるいは文化的要素、観光等を産業の背景に持つべきではないか。シビックプライドを持った人材をつくり、雇用を考える際も幅広い産業を位置づけることが富山市のかがやきが出るのではないか。
- 田園都市として、または環境都市ということもあるが、新幹線で来たときに山漁村が見えるような街は他にそうない。全国的にも競争力・強みになるのではないか。

□協働・連携部会

委員

- １．我が国を取り巻く状況の①少子高齢化と人口減少の進行のところでは、空き家の問題は富山市でも深刻な問題だという意見をもとに、空き家について構想の中に加えていただいた。
- ２．富山市を取り巻く状況のところでは、富山の強みをもっと打ち出すべきだという観点からご意見をいただいた。例えば天然のいけすと言われている富山湾、都市景観の形成に積極的であること、経済的なパフォーマンスとして所得や女性の有業率なども強みになるのではないか。

- 合併10周年だが、合併の問題点や課題についても言及するべきだという意見もあった。これは事務局の原案の中で、財政、公共施設の問題等とりあげていただいている。
- 主要課題の協働・連携の中で出た意見として、都市部と中山間地域は対立構造ではなく、補完的な関係としてとらえるべきというもの。中山間地域の開発が市全体の魅力を高めることにつながる。
- コミュニティの強化と中山間地域の世帯人口の現象の問題は切り分けて考えるべきという意見があった。コミュニティの強化については新しいあり方を検討、または現在の活動を活性化するという観点が必要。地域ごとのコミュニティの強化は必要だが、広域での市民協働のネットワークも重要になってくるのではないか。
- 新しい言葉の「シビックプライド」、「ブランディング」がキーワードとして出てくるが、市民に伝わりやすい形で概念を共有するべきだという意見をもとに記述をお願いした。
- 最も大きな問題として、そもそも「協働」とは何かという議論があった。「協働」とは大きな意味を包括する概念であるが、基本構想で考えている「協働」について記述していただいた。
- 基本構想の中身の問題では、過疎地域、中山間地域との関係性が議論になった。過疎地域にも価値を見出し暮らす人がいるので、そうした地域を支えることも大事。
- 森づくりは単に潤いのあるまちというだけではなく、防災面でも重要な設備。そういう観点からも記述が必要。
- 全体を通して、富山市の多様性について触れるべきという意見、またレジリエントシティ戦略との関係についても意見があった。
- コミュニティの強化が協働部会では重要なテーマであり、昨年末事務局より町内会等の現状についてヒアリングをしていただいた。その結果をもとに部会で検討した。
- 他の部会と同様に現場で感じられたこと等、具体的なご意見をちょうだいすることが多かったが、個別の意見については基本計画で検討することとした。

＜第２次富山市総合計画基本構想（素案）について＞

委員

- P12②少子高齢化と人口減少への対応では、少子化ということをあまりにも前提にしすぎているのではないか。少子化は取組によってはプラスに変わりうる。表現を工夫できないか。
- P12①多様な人材の育成と地域への定着のところで、富山市では学生まちづくりコンペティション等を実施し、県内に住んでいる大学生がまちづくりに関心を持ち、卒業後も富山市に残る人も出てきている。学生と地域のつきあいをうまくつくっていけるような文言を入れられないか。
- P14⑨伝統文化の継承と新たな文化の創造では、「市民一人ひとりが文化に親しむ」と

「新たな文化を創造する」の 2 つの「文化」のニュアンスが少し違うのではないか。

- P14⑩市民協働による共生社会づくりでは、横断的な人のつながり、テーマ型コミュニティ等の既存のコミュニティ以外の市民のつながりが生まれて、それが富山に住む価値を生み出すこともある。新しいつながりについても何か記述があってもいいのでは。

事務局

- 基本的な考え方についても改めて確認できた。スパンの長い計画の方向性を示すものであり、意見も踏まえながら進めていきたい。事務方の行政が気づかないことについても方向性として盛り込んでもらい、非常にバランスのいいものになった。これに基づいた実施計画をしっかりとつくり上げていかないといけない。

部会長

- どの市よりもよくできている。一番は実効性が担保できていること。実績もある。
- 「富山らしさ」のディフィニションについて整理が必要ではないか。計画とは別に町内等で富山らしさのディフィニションについて討論いただいたほうがいい。
- 地域のコミュニティの強化は大事。町内の夜回りに参加し続けてきたが、来ている人はいつも同じでなかなか人が集まらない。地域のコミュニティは崩壊しつつある。これでは安心・安全は守れない。人に求めるばかりなのはどうか。地域のコミュニティの重要性についてどこかに加えたほうがいいのではないか。
- 自助、共助、公助の順番。まずは自分、次はコミュニティ、それでもできないところは行政が請け負うということを、市民県民はどこまで理解しているか怪しく、権利を主張するけれど義務は果たさないということもおき、助成金がいくらあっても足りないし、空き家などの問題が出てくる。市民の自助、共助、公助の概念がどうなっているかということをどこかで触れていただきたい。
- ⑨伝統文化の継承と新たな文化の創造のところで、そもそも富山市民は富山の伝統文化についてよくわかっていない。人づくりにも言えることだが、地域のことをよく知る教育が大切。小学校、中学校あるいは町内会、あるいは大学でエクステンションプログラムでの交流。先ほどの学生と地域の交流の話とも重なるが、交流の場が必要なのではないか。
- 職住分離（勤務先が市外）のため、市民は市内に今どのような企業があり、どんな産業があるのかを知らない。それを知ってもらうことがシビックプライドにもつながる。モノづくりは地味だが、そこにどういう花が開いているのかを見る必要があり、それが市民の活力やかがやきにつながるのではないか。
- なぜ行政改革の推進が必要かをもう少し丁寧に書くべき。一番の問題は労働人口の低下であり、消費する人、税金を納める人、社会保険料を納める人の数が減ること。1967 年に日本の人口が 1 億人を超えた。今また人口が 1 億人に減ろうとしている中、衛生環境や生活水準等違うが、その頃の不便な状況に立ち戻り、皆で協力することがコンパクトシティの概念にもつながるのでは。行政改革を進める中で、シルバー民主主義

では若い人に申し訳ない。

委員

・ 主要課題で少子化がとりあげられているが、地方創生戦略では希望出生率の達成と言っている。マイナスイメージの書き加えではなく、プラスイメージでチャレンジ的な表現で課題としてとりあげてもよいのではないか。

・ 多様な人材との関連で、大学生が地域の中に入り込むことについては、地（知）の拠点として富山大学や県内の大学、短大が提携して取り組んでいる。その一環で学生のインターシップ等の取組において、地域に対する愛着心を持ち、地域に貢献しようという方向性、志向を高めていこうとしている。P20 政策１すべての世代が学び活躍できるひとづくりで、「地域に根ざし、国際化、産業の高度化等に対応する人材の育成と、創業・起業支援等の地域活性化に向けた地（知）の拠点としての高等教育の振興を図ります。」とあるが、これは５カ年計画で取り組んでいる。主要課題では一般的な書き方になっているが、地域で学ぶ、地域に学ぶ、地域で育つというような表現でもう少し踏み込めれば。

部会長

・ 八尾町では東京から学生を呼んで活動している。その前にまず地元の大学で取り組んでみるのがいいのではないか。

委員

・ 八尾町でも活動しているが、県外から学生が来たことはニュースになっても、県内の学生の活動はニュースにならない。

委員

・ 少子高齢化のところは気になるが、全体的にはそれぞれの部会で多くの方からの意見が出て、計画の潤いになり良い感じでできあがってきている。

・ 高齢者は少子高齢化と聞くと、生きていると申し訳ない気持ちになると言う。少子化の改善策がいろいろ出ているが、高齢化対策として、高齢者が元気に歩けるまちづくりをしていこうとしているということを強みにしてはどうか。自動車の運転ができなくなっても困らないまちにするということを、健康寿命ということで書き込んでいければいい。

・ ここに住んでみたいと思わせるためには、高齢者をマイナスイメージとして出さず、高齢者一人ひとりが豊かに生きていけるような対策をとっていくことを書いていけばいいのではないか。

・ 富山らしさとはいろいろあるが、コンパクトシティだけではなく、選択肢として田園、自然の中で暮らしたい方々も含めて大事にしていくことが富山らしさでは。全部都会（金沢）にしなくてはいけないわけではなく、富山の田園風景や場所の良さなどがあり、最後の一人まで大切にしていくという精神でやっていくということを書いていけばいい。北海道かどこかで最後の高校生が卒業するまで、路線を廃線にせず維持した

ということが話題になっているが、その精神が大切。

部会長

・ P21 の政策 1 人に優しい安心・安全なまちづくりとあるが、元気な高齢者には共助も行ってほしい。健康年齢を延ばすことは国でも重要視されている。生きがいをもって社会に参画していくことが大事であり、市でも高齢者の安全運転講習の受講率を上げる対策等も必要。

委員

・ 全体に言えることだが、肝心なところに出てこない人が課題を抱えているので、対策が今後の課題となっていく。

・ P13⑤集約化（拠点化）とネットワークの整備のところで、「人口減少・少子高齢化が進展する中で」とあるが、他は「進行」となっている。進展という言葉は進化発展につながるので、ここは変えてほしい。

委員

・ 学生と地域の関わりについてだが、2 月 20 日に新聞社、北陸 3 県主催の「ディスカバー北陸　富山フォーラム、若い世代とつくる国の未来」という文部科学大臣も来場するイベントがある。

委員

・ 少子高齢化のところで、少子化の原因がどこにあるのかつきつめて考えているのか。P12②少子高齢化と人口減少への対応の中で、「出生率の向上を図るとともに・・」とあるが、富山市の少子化は既婚者の子どもの数の減少は少なく、未婚率が増えていると言われている。根本的には経済問題となっているので、そこへのアプローチも検討いただきたい。

・ 中山間地域を含めたコンパクトシティの発想が重要。全ての部会から出てきている意見なので、重要な課題なのではないか。P18　4.都市構造の中で「コンパクトなまちづくりを実現するために・・・」とあるが、中山間地域をどのように位置づけるか前面に出してもいいのではないか。

・ 「郊外からの転居を促進する」という記述もまちの中に人を集めるということ。この郊外とはスプロール化した郊外であり、2 行後にある中山間の人口維持というのは矛盾しているように見える。意味の違いについても明確に記述するべきでは。

・ 「公共交通を維持することなど」とあるが、「など」の中身には共助やハードだけではないソフト対策等いろいろあるのではないか。本当に人口維持を目指すのであればこの「など」のところにも力を入れていただきたい。

部会長

・ 富山県はどこからでも 1 時間圏で、そもそもコンパクトシティである。好んで中山間に住んでいる人の利便性を考慮するのは無理なのではないか。自助努力してほしい。例えば、県庁まで 1 時間以上の地域に住む人に対しては支援する等の整理が必要では

ないか。好きで住んでいるのだから、「中山間地域の人口維持」は不要だと考えている。配慮する程度でいい。

委員

- 「シビックプライド」、「ブランディング」がキーワードとなっており、都市間競争の中などで重要になると考えるが、やや閉鎖性につながらないかという懸念がある。自らのまちに誇りを持つ、自らの伝統的な文化を知ることは、地域の中で教育等で伝えていく必要があるが、一方で自らの誇りは他者への尊敬とともにあって初めて機能する。文化の問題も今後人口が減っていき、他の地域・国との関係の中で、開放性を強めていかなければいけない。そのことを今後基本計画などで表現していただきたい。
- P12①多様な人材の育成と地域への定着の中で、「優秀な人材を育成しても大都市圏にその人材を送り出している現状があります。」とあるが、やや恨み節。今後はその下の地域への定着を進めていくこと、他地域から富山に職を得て定住者が増えるということが重要。ここもやや閉鎖的、経済で言うと重商主義的になり、富山市の成長を損なうことにつながる危険性もある。

部会長

- 多様性の理解について記述すべき。グローバルやグローカルも大事だが、多様性も理解しつつということ。

委員

- 先ほど神川先生のご意見にもあったが「進展」は「進行」でいいのでは。
- 総合計画で富山らしさをどう提言するかは難しいが、単純な分析では「日本一協調性が高い地域社会」、水力発電による企業誘致など、いいものを取り入れてきたこことで発展してきた。少子化が経済の問題に関わると言いながら、経済的にはうまくいっている。
- （少子化の原因について）多少結婚が遅いという印象はあるが、富山で少子化をつきつめて分析するのは難しい。ただ、計画においては少子化は克服できるものだという前提で書くべき。少子高齢化と並べて書くのは問題ではないか。
- 「新たな文化の創造」とはガラス工芸などを意味するのか。一人ひとりが文化に親しむことはお金のことだけではないと世間では語られているが、「文化に親しむ」と「新たな文化の創造」はどういう意味で書かれているかわかりやすく書けるのではないか。
- 富山らしさや誇りも精神論ではなく、具体的に社会をどうつくっていくかという中で生まれてくるもの。基本理念の「安らぎ・誇り・希望・躍動」のところに何か表現できればいい。

部会長

- 「アメージング」が入っていない。奥田英二さんに「富山には艶がない」と言われたが、どきどき感やわくわく感がないということではないか。
- 晩婚晩産が少子化の一番の原因なので、出会いの場を作ることについても触れてもい

いのでは。

事務局

- 今日のご意見をもとに検討させていただきたい。
- 富山らしさについて環境が出ていたが、環境という言葉は狭義に捉えられる可能性があるので、基本構想の中では前面に出さず、基本計画、個別計画の中で入れたい。実際の環境未来都市構想の中でも狭義の環境ではなく、福祉を含めた広いものとなっている。
- 少子化と高齢化を一括りにしない等はうまく表現したい。
- 今後、市の方で内容をつめて、最終的には諮問という形でみなさんの意見を伺う。
- 現在各部局にもこの素案を提示しており、そこで修正意見がいくつか出ている。今日のご意見も踏まえ、最終的な素案という形にし、政策調整会議の場で市長に報告し、案としてとりまとめたものを年度末に諮問として出すので、最後に案を取ったものを出し、それをもとに基本計画等を策定していくことになる。
- みなさんにも文書等で配布し、ご意見を伺ったほうがいいのではないかと考えているがいかがか。

部会長

- ご配慮ありがたいが、特に必要ないのではないか。この意見は採用した等の報告があればいい。
- 基本構想はいつ策定されるのか。

事務局

- 3 月頃に総合計画審議会の全体会議を予定しており、市長から審議会で今の案を諮問させていただき、再度審議してから 5 月くらいに審議会から市長に最終案を答申し、基本構想が固まる。議会には報告にとどめ、議案としてはあげない。

部会長

- 地方創生の中で基本構想は背骨として重要。

以上